日田市埋蔵文化財調査報告書第74集

大波羅遺跡４次

２００７年

日田市教育委員会

序　　文

大波羅遺跡は日田盆地東部の沖積地上に所在し、墨書土器なども出土する古代の集落跡として知られています。

今回の調査区では、弥生時代から中世期の掘立柱建物や溝などが発見され、貴重な成果を収めることができました。

本書が、これからの文化財の保護や地域の歴史の解明、さらには学術研究や学校教育などにご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係者の方々、作業に従事いただきました皆様方に対して、心から厚くお礼を申し上げます。

平成19年３月

日田市教育委員会
教育長　諫　山　康　雄

例　　言

1．本書は、日田市教育委員会が平成17年度に実施した大波羅遺跡の４次発掘調査報告書である。
2．調査は、分譲住宅建設に伴い、野口不動産の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3．調査にあたっては、熊谷洋一氏のご協力を得た。
4．調査現場での実測は渡邉・若杉・矢羽田、写真撮影は渡邉が行った。
5．空中写真は㈱九州航空に委託し、その成果品を使用した。
6．本書に掲載した遺物実測は矢羽田が行い、遺構・遺物の製図は矢羽田のほか、中川照美（文化財保護課調査補助員）の協力を得た。
7．遺物の写真撮影は、長谷川正美氏（雅企画有限会社）の撮影による。
8．挿図中の方位は全て磁北を示す。
9．写真図版の遺物に付した数字番号は、全て挿図番号に対応する。
10．出土遺物及び図面、写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
11．本書の執筆はⅠを渡邉、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを矢羽田が行い、全体の編集は矢羽田が行った。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過と組織 …… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 2
Ⅲ　調査の記録
(1)　調査の概要 …… 3
(2)　基本土層 …… 3
(3)　遺構と遺物 …… 4
Ⅳ　まとめ …… 8

挿図目次

第1図　調査区位置図（1/5000） …… 1
第2図　周辺遺跡分布図（1/25000） …… 2
第3図　遺構配置図（1/200） …… 3
第4図　基本土層図（1/40） …… 4
第5図　1号掘立柱建物実測図（1/40） …… 5
第6図　2号掘立柱建物実測図（1/40） …… 5
第7図　1～5号溝実測図（1/40） …… 6
第8図　6号溝実測図（1/40） …… 7
第9図　1～4号土坑実測図（1/40） …… 8
第10図　出土遺物実測図（1/3） …… 8

図版目次

図版1　上段　調査区遠景（南から）
下段　調査区全景（真上から）
図版2　①　1号掘立柱建物（南西から）
②　2号掘立柱建物（南西から）
③　1・2号溝（南西から）
④　3号溝（南西から）
⑤　4号溝（南東から）
⑥　5号溝（南から）
⑦　6号溝（南から）
⑧　2号土坑（南から）
図版3　出土遺物

本文写真目次

写真1　調査風景
写真2　基本土層①
写真3　基本土層②
写真4　基本土層③

表　目　次

第1表　出土土器観察表

日田市の位置

Ⅰ　調査に至る経過と組織

平成17年6月6日付けで野口不動産野口通氏より市教育委員会へ、日田市上城内町1116-1での分譲住宅造成工事に先立つ事前の照会文書が提出された。この開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である日田条里に該当し、これまで周辺では大波羅遺跡などの調査がなされていることから、その取り扱いについての協議が必要である旨の文書回答を行った。その後、6月13日には予備調査の依頼文書が提出され、これを受けて6月21日には試掘調査を実施したところ、溝や柱穴などが確認され、遺跡の所在が明らかとなった。

こうした結果をもとに、開発主と遺跡の取り扱いについて協議を重ねたところ、予定地の造成は盛土工法にて行われるものの、造成地内に上下水道配管施設を伴う位置指定道路が設置されることから、この箇所については遺跡の保存は困難であると判断した。そこで、農地転用許可後の9月に道路部分約360㎡の発掘調査を実施することとなり、開発主と8月30日には受託契約を取り交わし、9月12日～9月20日まで発掘調査を実施した。整理作業は10月25日から11月30日までの期間実施し、その後報告書作成を行った。なお、当初対象箇所は日田条里遺跡としていたが、周辺での調査例などとの兼ね合いから、本調査以降、大波羅遺跡4次調査として取り扱うこととした。

調査に関する日誌は以下のとおりである。

9月12日　機械による表土除去作業を開始する。

9月14日　遺構検出及び遺構の掘り下げ作業を開始する。

9月16日　遺構の掘り下げ作業が完了する。

9月20日　空中写真撮影を実施し、機材を撤収して調査を終了する。

調査風景

なお、調査組織は次のとおりである。

平成17・18年度

調査主体　日田市教育委員会

調査責任者　諫山康雄（日田市教育委員会教育長）

調査統括　後藤　清（同文化財保護課課長）

調査事務　髙倉隆人（同文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）、田中正勝（同専門員〔平成18年度〕）
伊藤京子（同専門員）、中村邦宏（同主事補）

調査担当　渡邉隆行（同主任）、若杉竜太（同主任）、矢羽田幸宏（同主事補〔平成18年度～主事〕）

調査員　土居和幸（同副主幹〔平成17年度〕）、今田秀樹（同主任）、行時桂子（同主任）

調査作業員　江藤キミ子、河津定雄、五反田静子、後藤美知夫、財津利枝、財津由太、高村三郎
筒井英治、原田強、原口勝利、平原知義

整理作業員　中川照美

第1図　調査区位置図（1/5000）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

大波羅遺跡４次調査区は、日田盆地東部の標高約90mの沖積地に位置する。遺跡の東には大波羅丘陵が走り、丘陵裾から西の盆地中央に向かって緩やかに下降していく。現在、遺跡周辺は住宅が立ち並ぶほか、市役所・警察署などの官公署も密集している。この地域は、古代律令下には『豊後国風土記』に伝えられる日田５郷のうち、日田を支配した日下部氏の拠点である軟編郷に属していたと推定されており、また、中世に約250年にわたり日田を治めた大蔵氏の居城である慈眼山の裾野でもある。

遺跡は過去三度にわたって発掘調査が行われており、１～３次調査区は、４次調査区の南東約200mあたりにまとまって存在する。１次調査では「田」・「山」等の文字が書かれた墨書土器が、２次調査では縄文晩期の溝や加工木材が、３次調査では、古代から中世の掘立柱建物や溝などが確認されている。

周辺の遺跡を概観すると、北に中世大蔵氏の居城跡である慈眼山が聳え、その眼下に中世期の居館の一部と考えられる大溝のほか、古代の井戸跡や「門」・「林」などの墨書土器が発見されている慈眼山瀬戸口遺跡、中世の井戸などとともに多量の遺物が発見されている上ノ馬場遺跡、古代から中世の掘立柱建物が検出されている日田条里上手地区などの中世集落の存在が確認されている。東の丘陵上には中世の山城跡である堤城跡のほか、古墳時代の石蓋土壙墓が発見されている赤迫遺跡、円筒埴輪が出土している薬師堂山古墳が、南には弥生時代から古代の集落が確認されている日田条里飛矢地区、弥生時代から中世の土坑や竪穴遺構が検出されている日田条里大原地区が存在する。また、西には重要伝統的建造物都保存地区に選定されている豆田の町並みが広がり、伝建地区の南に廣瀬淡窓が開いた私塾跡である史跡咸宜園跡、北に西国筋郡代所跡である永山布政所跡、丸山城が築かれた月隈城跡（月隈横穴墓群）など江戸期の中心的な施設が残るとともに、古代から近世にかけての水田層が確認されている日田条里四反畑地区、弥生時代から古墳時代にかけての住居が検出されている一丁田遺跡、弥生時代から古代の包蔵地である瀧ヶ本遺跡などが存在する。

第２図　周辺遺跡分布図（1/25000）

《参考文献》
渡邉隆行ほか編『大波羅遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第29集
日田市教育委員会　2001
村上久和ほか編『大波羅遺跡』大分県文化財調査報告書第116輯
大分県教育委員会　2001
土居和幸編『大波羅遺跡3次』日田市埋蔵文化財調査報告書第54集
日田市教育委員会　2004
田中裕介編『慈眼山遺跡（A地区）』大分県文化財調査報告第85輯
大分県教育委員会　1991
行時志郎編『上ノ馬場遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第23集
日田市教育委員会　2000
若杉竜太ほか編『日田条里飛矢地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第40集　日田市教育委員会　2003　　ほか

1.日田条里上手地区５次　2.日田条里上手地区１次　3.日田条里上手地区２次
4.月隈横穴墓群、丸山城　5.永山布政所跡　6.一丁田遺跡　7.瀧ヶ本遺跡
8.史跡咸宜園跡　9.大蔵古城跡　10.慈眼山瀬戸口遺跡１次　11.慈眼山瀬戸口遺跡２次
12.丸山古墳　13.上ノ馬場遺跡　14.日田条里四反畑地区　**15.大波羅遺跡４次**
16.堤城跡　17.赤迫遺跡　18.大波羅遺跡1次　19.大波羅遺跡３次　20.大波羅遺跡２次
21.薬師堂山古墳　22.日田条里飛矢地区　23.日田条里大原地区

Ⅲ　調査の記録

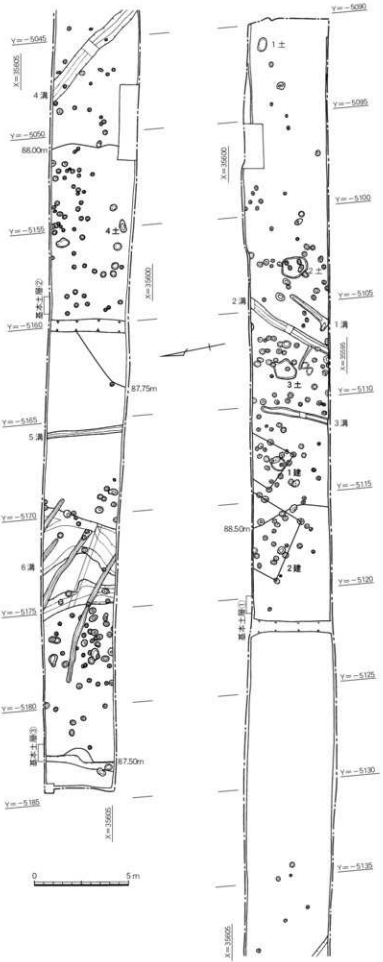
(1)　調査の概要（第３図）

今回の調査は試掘調査の結果を踏まえて、遺構検出面まで機械で掘り下げを行い、遺構の確認を行った。調査区は東西約90m、南北約４mの面積約360㎡の範囲で、標高約87.50～88.50mを測り、東から西へ緩やかに傾斜する地形であった。

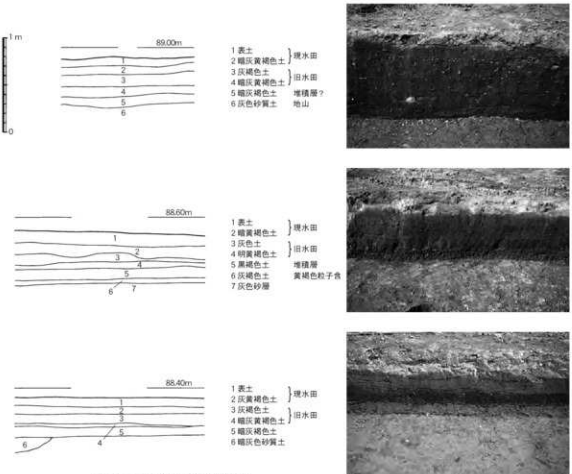
調査において検出された遺構は溝６条、建物２棟、土坑５基、柱穴多数である。このうち土坑について、４号土坑が積極的に土坑と認定する根拠が乏しかったために、調査終了後の整理段階で４号土坑を14号ピットに、５号土坑を４号土坑へと変更した。これらの遺構埋土は黒褐色土（５号溝以東の柱穴群）、褐色土（１・２･４号溝、５号溝以西の柱穴群）、灰色土（３号溝、２～４号土坑、調査区中央の柱穴少数）、砂質土（５号溝、１号土坑、調査区東端の柱穴少数）、の４種類が見られた。遺構は調査区の東部、中央部、西部の３箇所で集中的に分布するが、それぞれの集中部の間は近年の水田区画に伴う削平を受けており、遺構はほとんど見られなかった。

(2)　基本土層（第４図）

今回の調査区は東西に長いため、調査区北側の３箇所で土層の確認を行った。３箇所全てで、現況基盤土層の下から古い時代の水田層が確認されている。基本土層①では現水田層の１・２層、旧水田層である３・４層の下に、暗灰褐色の５層が堆積している。６層は地山で、灰色の砂質土である。基本土層②も１～４層までは基本土層①とほぼ同じである。５層は黒褐色の堆積層で、６層は灰褐色土の中に、黄褐色の粒子を含む地山である。７層は灰色の砂質層である。基本土層③も１～４層までは現・旧の水田層である。５・６層は地山で、５層は黒褐色土層、６層は暗灰色の砂質土層である。



第３図　遺構配置図（1/200）



第４図　基本土層図（1/40）

(3)　遺構と遺物

１号掘立柱建物（第５図、図版２）

調査区東側にて検出された建物で、調査区内では４穴が確認でき、北側に展開することが予測される。２間×１間＋αの建物で、柱間寸法は心心距離で2.3m×1.4m＋αを呈し、柱穴の深さは約20㎝を測る。柱穴からの遺物の出土はない。

２号掘立柱建物（第６図、図版２）

１号掘立柱建物に隣接しており、調査区内では４穴が確認でき、北側に展開すると予測される。２間×１間＋αの建物で、柱間寸法は心心距離で3.4m×2.2m＋αを呈し、柱穴の深さは約20㎝を測る。柱穴から遺物は出土していない。

１号溝（第７図、図版２）

調査区東側で検出された南西から北東方向に伸びる溝である。調査区内での規模は約2.5m、幅はおおよそ25㎝で、広いところでは70㎝を測る。深さは10㎝程度で、断面形は浅いレンズ状を呈する。床面のレベルにほとんど差が見られないため、溝の流れは不明である。

２号溝（第７図、図版２）

１号溝の1.5m程西側で検出された溝である。南西から北東方向に伸び、調査区内での規模は約4.8m、幅は56㎝を測る。深さは12㎝程度で、断面形は浅いレンズ状を呈す。土層はほぼ水平に堆積し、１層は暗灰褐色層で、粘質で鉄分を含み、２層は灰褐色の粘質土層できめが細かく、含有物を含まない。床面のレベルに殆ど差がないため、溝の流れは不明である。

3号溝（第7図、図版2）

2号溝より4m程西側で検出された溝である。南西から北東方向に伸び、調査区内での規模は約3.6m、幅約40cmを測る。深さは5cm程度で、床面レベルに差が殆ど見られないため、溝の流れは不明である。

4号溝（第7図、図版2）

調査区ほぼ中央で検出された溝で、南東から北西方向に伸びている。調査区内での規模は約6.2m、幅約80cmを測る。深さは26cm程度で、断面形は逆台形状を呈する。埋土は1・2層についてはほぼ水平であるが、3層は砂層の堆積であり、水流を示すものと思われる。床面レベルは北西方向に向かって深くなっている。

5号溝（第7図、図版2）

調査区の西側で検出された溝で、南北方向に伸びている。調査区内での規模は約4m、幅約30cm、深さは2～7cmである。床面レベルは北に向かって深くなる。

6号溝（第8図、図版2）

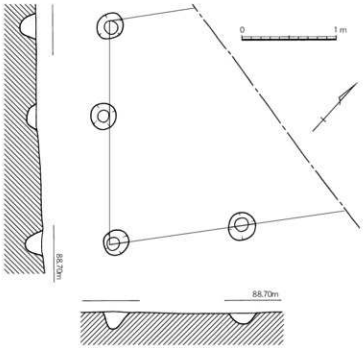
調査区西側で検出された不整形の溝で、ほぼ南北方向に伸びる。調査区内の規模は約3.8m、幅は最大で約6m、深さは最深で約42cmを測る。東西で2条の溝状に分かれており、それぞれ蛇行している。いずれも自然堆積と思われ、また、砂層であることから、水流が著しかったことを示している。自然流路の可能性が高い。

出土遺物（第10図、図版3）

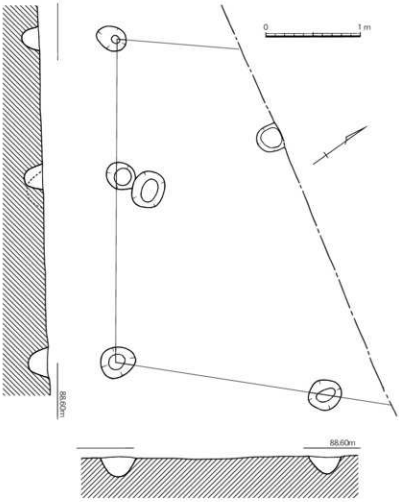
1は弥生土器の甕である。口唇部に刻目文が廻る。2・3は弥生土器の底部である。4は土師器坏の底部である。やや長い高台が巡る。

1号土坑（第9図、図版2）

調査区東側で検出された土坑である。規模は南北約46cm、東西約76cm、深さ約10cmを測り、平面は楕円形で、断面は逆台形状を呈する。



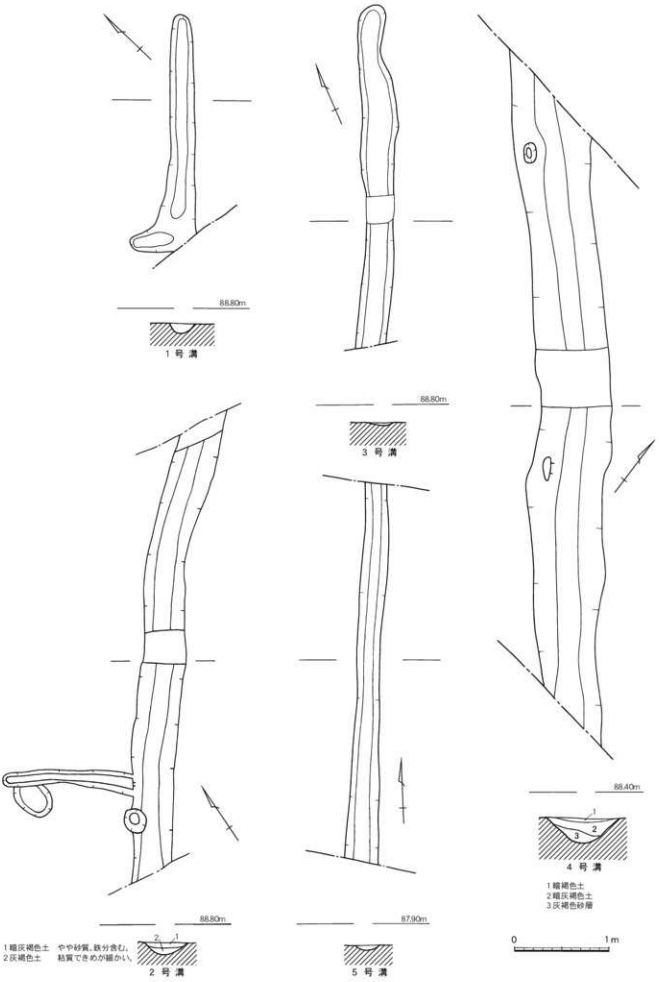
第5図　1号掘立柱建物実測図（1/40）



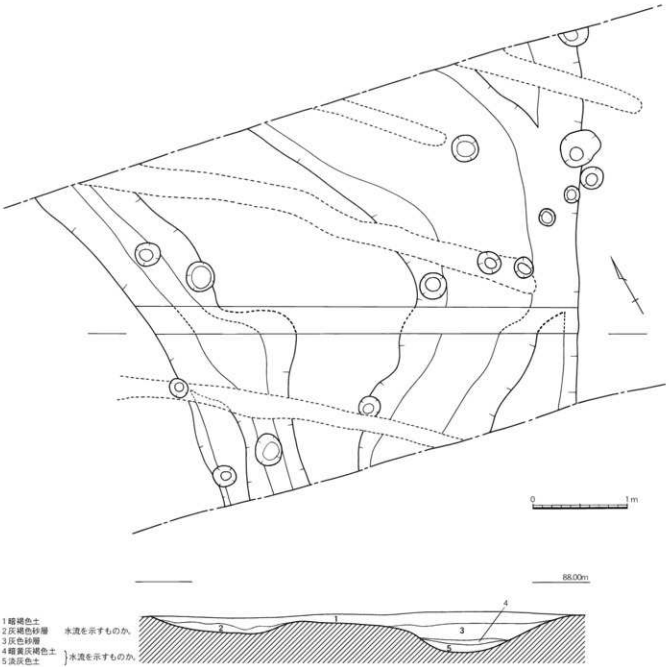
第6図　2号掘立柱建物実測図（1/40）

出土遺物（第10図、図版3）

5は土師質土器の底部である。内外面ともに調整は不明瞭である。



第７図　１～５号溝実測図（1/40）



第８図　６号溝実測図（1/40）

２号土坑（第９図）

１号土坑の西側で検出された土坑である。規模は南北約1.3m、東西約1.1m、深さ約４cmを測り、平面形は隅丸方形に近い楕円形を呈する。断面は逆台形状で、底面から約10cm程の落ち込みが４箇所見られる。

３号土坑（第９図）

２号土坑の西側で検出された土坑で、一部柱穴に切られる。規模は南北約1.1m、東西約1.0m、深さ約６cmを測り、不定形な平面を呈する。断面は逆台形状で、底面から約10cm程の落ち込みが見られる。

４号土坑（第９図）

調査区中央で検出され、規模は南北約32cm、東西約58cm、深さ約10cmを測る。平面は楕円形、断面はレンズ状を呈する。

柱穴

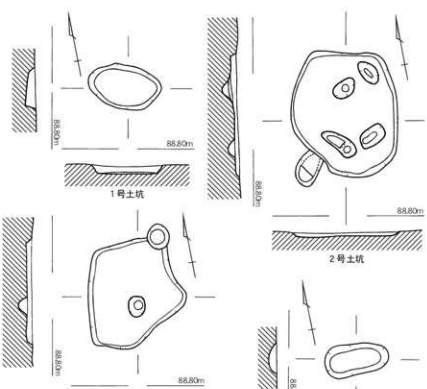
調査区の東部・中央部・西部の３箇所で集中が見られる。東部・中央部は黒褐色土の柱穴、西部は褐色土の柱穴が多く見られた。

出土遺物（第10図、図版３）

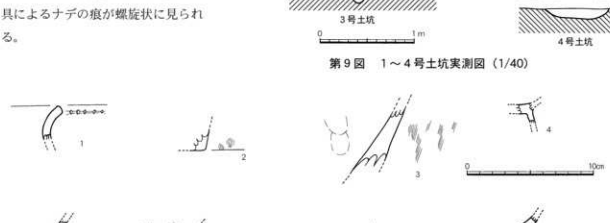
６はP10より出土した。土師質土器の捕鉢で、内面に摺目が施される。外面の調整は不明瞭である。

一括遺物（第10図、図版３）

一括の遺物には図示したもの以外にも青磁片や白磁片がある。７は須恵器の高台である。復元底径は8.8cmを測る。８～12は調査区西の壁面から出土した土師質土器の底面で、９～12の内面にはヘラ状の工具によるナデの痕が螺旋状に見られる。



第９図　１～４号土坑実測図（1/40）



第10図　出土遺物実測図（1/3）

Ⅳ　まとめ

今回の調査で確認された遺構は、掘立柱建物２棟、溝６条、土坑４基、柱穴である。出土遺物から考えうる遺跡の主な時代は古代～中世であると推定されるが、遺構に伴う出土遺物が乏しく、遺構ごとの年代特定は困難である。遺構の埋土については、褐色土（１･２･４号溝及び６号溝周辺の柱穴）、灰色土（３号溝及び２～４号土坑）、砂質土（５号溝、１号土坑及び調査区東端の柱穴）、黒褐色土（１・２号掘立柱建物及び上記の遺構以外の柱穴）の４種類が確認されており、切り合いから褐色埋土の遺構→黒褐色埋土の遺構とい

った前後関係が推定できるが、それ以外の詳細は不明である。6号溝については古代の坏の出土から、9世紀以降の自然流路と想定されるが、弥生土器の出土は、1次調査区で弥生期の溝などが検出されていることとあわせて、周辺に当該期の集落の存在を予想させる。また、同質の埋土を有する1・2号溝と4号溝がほぼ垂直に交わることは、周辺一帯に設定されたと推定されている古代の条里地割との関係上、注意しておきたい。

さて、古代律令下にあって、遺跡とその周辺は軽編郷に属していたと考えられている。軽編郷は古代日田を治めた日下部氏が拠点としていたと伝えられており、調査区南東に位置する1次調査区（註1）で、古代の墨書土器や瓦などの遺物が、調査区の北に位置する慈眼山瀬戸口遺跡（註2）では、8世紀後半の井戸跡と水汲場状遺構とそれらに伴う墨書土器等が出土しており、官人層の住居もしくは官衙・寺院などの古代日田郡の拠点となる施設が存在したことを想像させるこれらの遺跡の間に調査区は位置している。また、やや西側の日田条里四反畑地区（註3）では古代の水田層が確認されており、条里地割との関係を窺わせる。

中世期には、調査区の北にある慈眼山を本拠地とした大蔵氏が、約250年にわたり日田の地を治めることとなるが、その裾野には石組水路が検出されている慈眼山遺跡（註4）・慈眼山瀬戸口遺跡・上ノ馬場遺跡（註5）などの中世集落が密集している。これらの遺跡では、遺構の配置から溝や建物等が関連したものであることが窺え、時期もほぼ同じであることから、慈眼山一帯のかなり広い範囲で計画的な造成が行われた可能性が指摘されており、今回の調査区もこの範囲に含まれる可能性が高い。

このように調査区一帯は古代から中世にかけて日田の拠点となる地域にあたり、古代の軽編郷と中世期の大蔵氏居城下におけるそれぞれの集落の広がりを検討する上で重要な資料を提供している。

註

註1）渡邊隆行ほか『大波羅遺跡』 日田市埋蔵文化財調査報告書第29集　日田市教育委員会　2001

註2）坂本嘉弘『慈眼山瀬戸口遺跡』平成3年度国家公務員合同宿舎日田住宅2号棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　大分県教育委員会　1992

註3）土居和幸『日田条里四反畑地区』 日田市埋蔵文化財調査報告書第46集　日田市教育委員会　2003

註4）田中裕介『慈眼山遺跡（A地区）』日田教職員住宅改築工事に伴う発掘調査報告書　大分県文化財調査報告第85輯　大分県教育委員会　1991

註5）行時志郎　『上ノ馬場遺跡』　日田市埋蔵文化財調査報告書第23集　日田市教育委員会　2000

第1表　出土土器観察表

掲図番号	遺構名	種別	器種	法量				調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第10図-1	6溝	弥生	壺	-	-	-	(2.7)	頸目、ナデ	ナデ	ABCDEF	良好	灰白色	黄褐色	頸目口縁
第10図-2	6溝	弥生	壺?	-	-	-	(1.7)	ケテハケ	不明瞭	ABCDEFH	良好	橙色	不明	
第10図-3	6溝	弥生	壺	-	-	-	(5.7)	ケテハケ	指頭圧痕	ABCEFH	良好	灰白色	浅黄色	
第10図-4	6溝	土師器	坏	-	-	-	(1.2)	ナデヶ	ナデヶ	ABCEFH	良好	灰白色	灰黄色	
第10図-5	土坑1	土師器	坏?	-	-	-	(2.1)	ナデ	ナデ	ABCDEFH	良好	黄褐色	黄褐色	
第10図-6	P10	土師器	須恵	-	-	-	(1.4)	不明瞭	剥目	CD	良好	黄褐色	赤褐色	
第10図-7	一括	須恵器	高台付椀	-	-	(8.6)	(1.1)	回転ナデ	回転ナデ	BC	良好	青灰色	青灰色	
第10図-8	一括	土師器	坏	-	-	-	(1.5)	回転ナデ	ヘラ状工具による圧ナデ、圧ナデ	ABCDEF	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	底部糸切り
第10図-9	一括	土師器	坏?	-	-	-	(2.1)	回転ナデ	ヘラ状工具による圧ナデ、圧ナデ	ACDEF	良好	浅黄橙色	黄橙色	底部糸切り
第10図-10	一括	土師器	坏	-	-	-	(2.9)	回転ヘラケズリ	ヘラ状工具による回転ナデ	ABCDEF	良好	浅黄橙色	赤褐色	底部糸切り
第10図-11	一括	土師器	坏?	-	-	-	(1.5)	ナデ	ヘラ状工具による回転ナデ	ABCDEF	良好	浅黄橙色	黄橙色	底部糸切り
第10図-12	一括	土師器	坏?	-	-	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ	ACDEF	良好	黄橙色	黄橙色	底部糸切り

法量の単位はcm。（ ）数値は、残存と復原を表す。

胎土：A角閃石　B白雲　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　H砂粒

写真図版 1

調査区遠景（南から）

調査区全景（真上から）

①１号掘立柱建物（南西から）

②２号掘立柱建物（南西から）

③１・２号溝（南西から）

④３号溝（南西から）

⑤４号溝（南東から）

⑥５号溝（南から）

⑦６号溝（南から）

⑧２号土坑（南から）

写真図版 3

10-1

10-2

10-4

10-5

10-6

10-7

10-8

10-9

10-10

10-11

10-12

報 告 書 抄 録

ふ り が な	おおはらいせき
書　　名	大波羅遺跡４次
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第74集
編 著 者 名	渡邉　隆行・矢羽田　幸宏
編 集 機 関	日田市教育委員会文化財保護課
所　在　地	〒877-0077　日田市南友田町516-1
発 行 機 関	日田市教育委員会
所　在　地	〒877-8601　日田市田島２-６-１
発行年月日	2007年３月30日

所収遺跡名	所　在　地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大波羅遺跡4次	大分県日田市 大字北豆田字高外場 1116-1	44204-6	651149	33°19′27″	130°56′32″	20050912 ～ 20050920	360㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主　な　遺　構	主 な 遺 物	特記事項
大波羅遺跡４次	集落跡	弥生時代 古　代 中　世	掘立柱建物２棟、溝６条、 土坑４基、柱穴	弥生土器 須恵器 土師質土器	

大波羅遺跡４次

日田市埋蔵文化財調査報告書第74集
2007年３月30日

編　集　日田市教育委員会文化財保護課
〒877-0077　大分県日田市南友田町516-1
発　行　日田市教育委員会
〒877-8601　大分県日田市田島２-６-１
印　刷　尾花印刷有限会社
〒877-0026　大分県日田市田島本町８-８